

第3回 奈良市地産地消促進計画検討委員会 議事内容（要点）

日時：平成25年12月13日（金）14時～

場所：はぐみセンター1階 ボランティアセンター会議室

■出席委員

委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

副会長：崎山 敬厚（JA ならけん南部営農経済センター 副所長）

委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

委員：岩井 章人（奈良市4Hクラブ委員）

委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

委員：中島 弘子（奈良市北和農村生活研究クラブ）

会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

■欠席委員

委員：尾崎 敦士（旬菜ひより 代表）

■奈良市地産地消促進計画策定について

<事務局

○前回の第2回検討委員会において、具体的施策の実施内容（6）までの審議が終了しているため、本日は、7ページの（7）「食育の推進と新たな食文化の創造」及び8ページの（8）「環境負荷の低減と食料自給率の向上」の審議をお願いします。

○前回の審議結果を受けて、（6）までの部分については修正を行っており、昨日皆様にもメールにて送付させていただきましたが、本日の審議の一番最後に、全体を通して最終の見直しをしていただきたいと思いますと考えておりますので、その際にご意見など、よろしくをお願いします。

□具体的施策の実施内容(7) 一学校給食における地産地消の推進一

<事務局

○（7）の具体的施策①「学校給食における地産地消の推進」に関連して、資料2「全国の学校給食への地産地消推進における問題と背景」、資料3「地産地消を推進している学校給食の取り組み事例」にまとめさせていただきます。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●奈良市では地場農産物35%以上の使用を目指すと書かれておりますが、奈良市では現在どれぐらいでしょうか。

⇒事務局

○公表されている数字で34.6%です。ただ、指標によって数字が異なり、全国でも指標が統一されていない。例えば、1食材を100%使っているものを計るのであれば変わる。100%奈良県産使用しているものはJAさんを通じて、米、梅干し、柿だけ。現状、良く使う主な食材が、奈良県産であれば、カウントする方法をとっている。

⇒**会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）**

- 出ているものも、数字の解釈で異なる。

⇒**委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）**

- 資料 2 の全国の地場農産物活用状況はどの指標を使ったものか。

⇒**事務局**

○ 学校給食に使用した食品数のうち地場産食品数の割合です。（※食材ベース）

⇒**委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）**

- 以前、NPO で調査したことがあるが、奈良市は頑張っていると思われる。ただ、品目ベースだと難しい部分がある。資料 3 で事例を上げて頂いたが、奈良市の現状にあったものを考えていければと思う。

⇒**会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）**

- 数量確保が難しいと聞いている。使いたいけど使えない状況があると聞いている。

⇒**委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）**

- 奈良市では、統一献立が問題だったが、改善する方向を考えていると聞いている。学校給食での取り組みなどが進めば、地産地消が進むということでしょうか。

⇒**事務局**

○ 地産地消を進める中で少し状況が変わっている。来年度より、食材発注を教育委員会が担っていく事になっており、効率化も求められているので難しい部分がある。

⇒**委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）**

- 今までは、学校給食会に聞いても分からないということがよくあった。市が関わることで、透明性が担保されて素直に嬉しい。市の方針が反映されやすい状況だと思っている。状況を改善して、目標数値、期間を定める等やっていただきたい。

⇒**会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）**

- 食材発注は市で行うとなるとどうなるのか。また、献立はどうなるのか。

⇒**事務局**

○ 献立は県から派遣されている栄養士をグループに分けて、毎月ごとに献立をたてて、調理師と調整して決めている。また、給食費は予算の範囲内で決定しているので、非常に大変な作業を行っている。

⇒**委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）**

- 給食費を上げるのは無理でしょうか。地産地消を進めるなら金額が上がるとは思う。地産地消なら安心等を伝えたと、金額を上げる事に批判は出ないのではないか。

⇒**事務局**

○ 実際、4 月より消費増税があり、増税前の現状でも食材費が上がってきている。これは一般家庭に説明しやすい。ただ、保護者にも、地産地消が良い事は理解されているが、家計が圧迫される現状で、原材料の値上げ以上の値上げを提案するのは難しい。栄養士と相談する中で、カロリーを確保した中で副食（おかず）を良い物にしたいという想いはある。ただ、値上げに対しての保護者の合意を取るのとは別の話である。

⇒**委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）**

- 仕組みを変える事で無駄を解消出来るはず。給食で購入する食材費も決して安い訳ではない。例えば、JA さんに関与頂く等で、価格に合う取組みになると思う。卸値と小売値の差額はどこへ行ったのかという部分もあるので、無理のない落としどころがあると考えている。

⇒**会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）**

- 具体的施策①では学校給食の米をメインに捉えている。それだけでよいのでしょうか。ちなみに、今、お米は市内産でしょうか。

⇒事務局

○今は県内産です。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 生産量的にどうか分からないが、市内産を進める判断が難しい。
- 具体的施策②は「苺」と「大和茶」に関する事項で、学校給食の内容ではない。

⇒事務局

○米飯でいくと牛乳ではなく、いずれ大和茶にできればという話も出ている。ただ、完全給食・間接給食いろいろあるが、牛乳なしでは給食と定義出来ない。

○他の自治体では、牛乳とお茶と合わせて出しているか、もしくは時間をずらして牛乳を飲む時間を設けるといった取り組みをしている。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 朝食欠食により、11時にヨーグルト飲んだりしているところもある。

⇒事務局

○カルシウムの割合的に、牛乳に勝る物はない。栄養的観点からも、給食を牛乳なしで考える事は出来ない。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 牛乳を地産地消にすることは出来ないか。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- 生産量からすると、奈良市産の切り替えは出来ない。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 現状、地場農産物活用率 34%なのだから、もう少し品目を増やせるのではないか。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- パンをやめて、米飯ばかりはできないのか。カロリー計算等もあるだろうが問題ないか。

⇒事務局

○出来ないことはない。ただ、地産地消の問題とは別に、ご飯を炊く必要がある。現在、奈良市で炊飯施設あるのは、都祁、月ヶ瀬の共同炊飯場 2カ所しか炊けない。他の給食場は炊飯業者に委託して納入している状況である。これが、意外に費用がかかる。米の価格とパンの価格で考えるとパンの方が少し高い状況だが、炊飯費用を加味すると、米飯の方が少し高くなる。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 米飯給食の全国平均日数 3.5 日以上の 4 日を目指して欲しい。

⇒事務局

○平均以上は勿論目指すべきと考えている。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 今使用している品目で使用回数を増やすのか。取り扱い重量ベースで何%増やせたか言えると地産地消推進を言いやすいのではないか。

⇒事務局

○具体的施策という概念の中で、給食での米の使用割合を増やす事は施策でも出ているので記載している。それ以外の品目を増やす取り組みをしてゆくと、米は現状モデル事業を進めているので言いやすい状況にある。

現状、野菜に関しては、規格・数量などクリアしないといけない問題があるので、それら状況を踏まえて明記をする。

あとはやり方だと思う。全学校に対して地元野菜をという事だとロットの話になる。例えば、西部地域のある場所では献立は同じで、その内の2校3校は地場野菜のロットを確保出来るので用意するということでも良いのではないかと考えている。

大量に生産しているところはあまりないと思うが、小規模農家の商品を集めてやって行く方法もあると考えている。

⇒副会長：崎山 敬厚（JA ならけん南部営農経済センター 副所長）

- ある程度エリアを決めて、数量を決めてもらえれば、やりやすいシステムかと思う。

⇒事務局

○給食は一律費用なので、地域差が出ないような配慮しながらシステムを考えていきたい

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 生産量確保と流通システムの構築が課題ということですね。

<委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- 中学校給食では給食センターを作るのか。

⇒事務局

○学校敷地内に調理場を置く、自校方式で決定した。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- 自校方式だと配達コストが掛かる等、デメリットにならないか。配達件数が増えれば増えるほど、コストが掛かるのではないかと考えている。

⇒事務局

○トータルコストで考えるとセンターだと一括調理なので人件費は抑えることが出来る。ただ、運送費用が掛かる。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 地産地消を進めるには、流通システムを構築する事が大事ではないか。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- 配送の順番も大事になると予想出来る。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 奈良だとコーディネーターを置くのかどうかなど検討する必要がある。米だけだと、具体的過ぎて広がりがないのではないか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

- 給食の流通システムを構築するには担当課はどこになるのか。

⇒事務局

○学校給食課である。米飯をモデル的に進めている都祁・月ヶ瀬では、生産者が配送まで行っているシステムで出来上がっている。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- 学校給食が始まって、炊飯だけは委託になるのか。

⇒事務局

○可能性としてはコストがかかるが、調理場に米飯を炊ける施設を作ることは選択出来る。

○月ヶ瀬は米所で、学校の近くで作っている環境もあり、食育の観点からも近所のお米を食べられるシステムを構築した。

○市に一括供給するのではなく、地域で消費出来る美味しい物があれば、地域で消費する形ができればと考えている。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●給食費は1人当たりの予算は1日いくらか。

⇒事務局

○現状、小学校は239円、中学校は292円、中学校は摂取量1.3倍となっている。

⇒委員：中島 弘子（奈良市北和農村生活研究クラブ）

農家が農協に供出している訳だから、農協から市に出すことは出来ないのか。

⇒事務局

○農協は県単位でやっているの難しい。

⇒副会長：崎山 敬厚（JAならけん南部営農経済センター 副所長）

●奈良の平坦地区は奈良市柏木の低温倉庫で日も決めて集荷もしている。配送も一括している状況。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●さらに進める上で問題点はないのか。このままでいけるという事で良いのか。

⇒事務局

○JAさん等の協力を得て、地産地消にこだわっていければと思う。

⇒委員：岩井 章人（奈良市4Hクラブ委員）

●品目別のグループが無いから、組織的に集めるのは問題ない。組合もあるので難しい部分あると思う。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

●給食の場合は3か月前献立を決めているので、ある程度の分量を確保して頂く事は出来るのではないのか。

⇒副会長：崎山 敬厚（JAならけん南部営農経済センター 副所長）

●今ある部会や生産組合である物を選んでいただくか、今後こういう物が必要になる等や、作付をお願いして頂いたりしながら生産者を育てるところまでいけば、発展していくと考える。

⇒事務局

○奈良市産のお米を進めていたのは、JAさんを通してだと、奈良県産表記だけで市産かどうか分からないというところで、こだわっている。

○地域の生産者のお米を取りまとめるなどの方向性も検討。

⇒委員：岩井 章人（奈良市4Hクラブ委員）

●絶対奈良市のものを使うとするなら、生産者指定するなどシステム作りが必要。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●ちなみに、地産地消の概念の中に半径16km以内の物を使うという考え方もある。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●県産使用でも地産地消になると思う。

●米だけ記載すると米だけで終わるのではないか。「例として、県内産の米を市内産へ順次切り替える…」という記載する。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●記載を「米を中心にした食材…」としては、奈良の米を出したいという想いが前に出ているのではないのか。

⇒事務局

○「米を中心とした…」が良い。

○ちなみに11月の給食で使用した米は全て市内産になった。炊飯業者へ運び入れる時に把握出来るので分かった。ただ、天理市、生駒市の子どもも奈良市産の米を食べている。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

●市としては、実際どこまで進めるのか。

⇒事務局

○まずは市内産、無ければ近隣市町村、県内、県外の物を購入する流れが大前提。他の自治体も同様だが、同じ考え方で取り組む。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

●奈良県産しか表示ないのであれば、それでも良いのでは。実際、すでに市内産で確保出来ている。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●文言はこのままでよいか。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

●給食でのお茶使用を記載した方が良い。

⇒事務局

○文末で野菜類などに関して順次拡大すると記載する。

⇒一同同意

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●具体的施策②の「食材」のブランド化の項目はよろしいか。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●ブランド化はどうブランド化していくのか。「大和茶」はほうじ茶のイメージが強い。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●高級品のイメージがある「苺」はどうでしょうか。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

●奈良市は「章姫（あきひめ）」が一番多い。「古都華（ことか）」は価格が市場と合わないのでは、流通に乗せられない。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●これはよろしいでしょうか。

⇒一同合意

□具体的施策の実施内容(8) ー環境負荷の低減と食料自給率の向上ー

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●生産方法や配送方法の情報をホームページに載せるとあるが、いまいち想像できない。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●青森産の青ネギを食べるのか、奈良市産の青ネギを食べるのかでも、環境負荷が異なるという事を紹介するという事ではないでしょうか。

⇒事務局

○藤丸委員の意見にも含まれておりますが、こういったルートを回るとCO2が削減出来るか等、運送業者はノウハウを持っている。効率化・最適化の研究事例等を紹介する。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●ホームページを見れば、消費者の意識を啓発出来るという事を狙っている。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 啓発事業は、農林課以外の課も参加を想定しているのか。
- 地産地消は農林課だけで進める訳ではなく、いろんな部や課が関わるはずだが、このホームページだと、全体で進めるイメージが湧かない。例えば、食育だと、この部署で進めて行くとか、この項目で記載できないか。

⇒事務局

○ホームページは各課からひっばるようなイメージだが、全体の見せ方は検討する。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

あとはアイキャッチとして「レッツ地産地消」マークみたいなものがあれば他の課でも書類に貼るなど取り組める。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 保育園の保護者に配る新聞にアピールするなど出来ることがあるので、ホームページだけに限定するのはもったいないと思う。

⇒事務局

○例えば、現状、保育園の給食などで考えた場合、震災以降使っている材料はどこ産かを示しているので、アピールの方法はいくつかある。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- そこに、近くのモノを使うとこんな良い事あるという事も、少しずつで良いので伝えて欲しい。

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- ①は「環境に配慮した生産方法や配送方法などの情報を市のホームページなどで紹介・啓発することによって、環境負荷低減や食糧自給率向上に寄与することを目指していく」ではないか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

- 食料自給率は地域内のという事でしょうか。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 市内の食料自給率という事でしょうね。ただ、基本計画の策定の時は、外国から輸入したら高くなるので、国全体で捉えて決めた内容だったと記憶している。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

- 今回は、地産地消の計画だから市内でしょう。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 「奈良市における、環境負荷の低減と食料自給率向上」とする方がはっきりする。

<委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

- ②に関してだが、岩井委員はエコファーマーでしょうか。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- エコファーマー取っています。基準を満たしていれば、エコファーマー認定がとれる。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 限定的な施策より、もっと漠然とした「人と環境にやさしい奈良になろう」というような理念に基づく内容はいかがか。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

- そういう意味はエコファーマーぐらいしかない。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●検査はあるのか。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

●年 1 回、登録した人の更新があって、県が認証を出す。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

●認証を支援する方が推進力あるのかな。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●エコファーマーの認証推進制度ないのか。

⇒事務局

○国の認証に向けての支援制度はある。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●市民の為に、エコファーマーの育成支援などを進めて行くとかはどうでしょうか。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

●それだと偏らないか。全員がエコを推進すべきとは思わない。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

●エコを推進するのではあれば、農家にとって利益上がるとか利点がないと推進が難しい。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●ただ、市民レベルではそういった制度は必要と感じている。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

●③で記載しているので、この項目でより具体的に書いていくかどうか。市としてはエコファーマーを推進しているのか。

⇒事務局

○差異化を図る為に、エコファーマーなど一つの付加価値を付けて行く方が生き残って行けると考える。

すべてエコは出来れば良いが、生産量が落ちるので、その部分の補助を行うかどうか検討が必要。付加価値を考えられる農家さんを助ける支援は出来ても、全ての農家は難しい。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

●②の記載の「支援」はよい。全面的にバックアップするとなると別問題が出てくる。今いるエコファーマーを支援するという意味で良い。③に関わるが、新規に取り組む人への支援内容の表現は慎重にすべき。

⇒委員：岩井 章人（奈良市 4H クラブ委員）

●知っている人と知らない人は別として、農薬を撒かないと取れないという物もある。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●市として、環境負荷低減を考えているのであれば、やるやらないは別として、やるという事を記載することで良いのではないか。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

●理念にもある「豊かな食と食文化を未来へつなぎ、安心・安全な彩ある農林畜産物の生産に向けて」重要な内容と考えている。

●いろんな売りがあるが、新規就農者が減る中、有機農業の新規就農者は増えている。将来性を感じて、就農する方もいるので良い取り組みではないかと思う。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

●「取り組みを支援する」という記載で良いか。

●エコファーマーの注意書きが必要である。

⇒副会長：崎山 敬厚（JA ならけん南部宮農経済センター 副所長）

- ちなみにエコファーマーは認知度が低いから、値段に反映されない。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 認知度を上げないといけませんね。

<委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

- ③の「有機農業や無農薬・低農薬農業の情報提供」の表現は踏み込み過ぎではないかと思う。
- 「地球にやさしいもの、人と環境に優しい」というような文言でないと、限られた人だけが対象にならないか。

⇒事務局

○国は環境保全型という文言を使っているがいかがでしょうか。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- それいいですね。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 「環境保全型農業の取り組み」という文言に変更しましょうか。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 「低農薬農業など環境保全型農業…」という方法もある。

⇒委員：藤丸 正明（株式会社地域活性局 代表取締役）

- 具体的施策③の文言を「環境保全型農業の情報提供」に変えて、今の具体的な説明で良い。

⇒一同同意

■全体の審議を終えて

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- これで、全体の審議が終了いたしましたので、全体の見直し作業をさせていただきたいと思う。

前回の審議を受けて、4ページの「5. 計画の内容」の表記を大きく変更している。これは辰巳委員のご意見をを受けて、基本理念～基本方針～推進方策～具体的方策の流れがわかるような表としている。

- 全体を通して、何かご意見がありますでしょうか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

- 基本方針と推進方策は敢えてリンクさせてないのは意図があるのか。

⇒事務局

○線が入り組んでしまうので、あえて見やすさを考えて繋いでいない。

⇒委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 主に関係ある物を繋いで良いのではないか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

- もしくは、全体で集約したら良いのではないか。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 基本方針の要素の間隔を詰めてみてはどうでしょうか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

- そのあたりは事務局へお任せします。

⇒一同同意

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- ありがとうございました。これで全体の審議は終了いたしました。本日の審議を受けて、事務局で促進計画（案）をまとめていただき、パブリックコメントをかけることとなりますが、その辺りのスケジュールについて、事務局からご説明をお願いいたします

⇒事務局

- 「1.背景」の文章だが、状況が変わる可能性があるので状況を反映したものに修正する。

⇒一同合意

<事務局

- P6の（3）新たな物流システムの構築は、給食の流通に関しても書き加える事が出来ればと考えている。

⇒一同同意

<委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良 理事長）

- 理念の「1300年の歴史に感謝して…」が反映されているか。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 大和茶の項目あたりでしょうか。なかなか難しいですね。可能であれば入れていただければ幸いです。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部 准教授）

- P3の計画の基本方針の上に基本理念を記入してはどうか。

⇒一同同意

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 最終案はメールで送って頂けるのか。

⇒事務局

- そうです。

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- これにて長い審議が終了します。ありがとうございました。

- 事務局より今後の、スケジュールに関してお知らせをお願いします。

⇒事務局

- 当初、パブリックコメントの実施時期を1月に予定していたが、今回第3回目の検討委員会の開催時期が予定よりも遅くなったため、パブリックコメントを2月に延期させていただきたいと考えている。

- 2月号の「しみんだより」、ホームページで2月1日～28日までの1か月間、意見募集を行い、その後、3月初旬に第4回検討委員会を開催し、この検討委員会としての「促進計画（案）」をまとめていただき、3月中に市長に提言していただき、4月に計画策定というスケジュールとさせていただきますというスケジュール（案）です。

⇒一同同意

<会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部 教授）

- 次回の検討委員会は、パブリックコメント終了後の3月ということですが、日程はいかがいたしましょうか。
- 本日、日を決定するか、後日メールにて調整するかということになりますが、いかがでしょうか。

⇒メールにて調整で合意